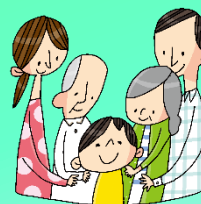


# 学びの広場



京都市教育委員会  
教員養成支援室  
令和7年2月8日 No.9

## 第8回京都市教育学講座 保護者の方によるパネルディスカッション 『先生をめざす塾生に期待すること ～保護者の立場から～』



第8回は、小学校、中学校、総合支援学校から3名の保護者の方をお招きして、パネルディスカッション形式での講座でした。  
それぞれの学校に通うお子さんを見守る中で、子どもや学校・教師との印象的な出来事、保護者として学校や教師に期待していること等について具体的なエピソードを交えながらお話いただきました。



保護者の方からは、担任の先生が「子どもたちが学校生活を楽しんで頑張れる要素をたくさんつくってくれたこと」や「我が子が頑張ったことの過程を認めて、大いに褒めてくれたこと」等を、教師との関わりの中で印象に残っている出来事としてあげられました。我が子が毎日学校に楽しく通っていること、学校での学びや様子を楽しく話す姿から、保護者の方の「学校や教師に対する信頼」が自然と生まれることにも気付くことができました。



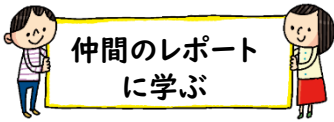
最後には、「子どもは大人の鏡。教師として子どもに影響を与えることの大きさを自覚し、自らの言動をしっかりと考えて子どもたちと接してほしい。」ということや「保護者と教職員で子ども達を守り育てられるような関係性をつくるのができたらと感じている。」と塾生に対してメッセージをおくっていただきました。普段、保護者の方と接する機会の少ない塾生にとっては、保護者の方の思いや願いを知ることができる大変貴重な機会となりました。

### 特別講座④

## 体育健康教育室 山口 淳 首席指導主事 『学校における子どもの健康と安全』

特別講座④では、京都市の学校において子どもたちが健やかに、安心安全に毎日を過ごせるように、どのような取組をしているのか事例をもとにご講義いただきました。運動能力や体力向上につながる取組、より効果的な薬物乱用教室の実施、教職員の共通理解を図り子どもたちのかけがえない命を守りきる取組、食に関する指導など、「体育」「保健」「安全」「給食・食育」の4つの視点から京都市の取組について学ぶことができます。

1つ1つの取組が関連しあって、学校全体で子どもの命を守りきることや健康や安全を大切にしようとする子どもを育てることにつながっていることを知ることでできる講座です。



## 仲間のレポート に学ぶ

## 第8回京都市教育学講座 保護者の方によるパネルディスカッション 『先生をめざす塾生に期待すること ～保護者の立場から～』を受講して

今回の講義を通して、子どもに寄り添い、保護者とともに子どもの成長を見守り、考えられる教員になりたいと思った。また、講義の中で、「子ども一人一人への伝え方」や「伝わる言葉で伝えること」の難しさを感じた。保護者はPTA活動や授業参観以外、担任の先生の様子を子どもとの会話の中でしか知ることができない。そのため、保護者の方との信頼関係には、普段の子どもとの関わり方が大切であると感じた。小学校代表の保護者の方が、「子どもが先生の話を楽しそうにする」とおっしゃっていた。子どもがこのように思う背景には、担任の先生が目の前の子どもたちにピタッと合う言葉、行動をしていることが考えられる。目の前の子どもに合った言葉を吟味し、伝えたいことをしっかりと伝えるということが大切であると思った。また、障害がある子どもに対して、その子にあった学びの方法を考えるためには、知識が必要である。そして、見極めるなどの経験も必要である。経験は現場に出てからでないと中々難しいが、知識は今からでもつけられる。現場に出た時に慌てなくてもいいように、今できることを全力でしたいと、あらためて思った。また、終業式のクラス写真の話を聞いて、自分の判断を客観視することの大切さを感じた。自分の判断と子どもの思いを照らし合わせるが必要不可欠であり、常に、自分の判断や行動を振り返ることが客観視につながると思った。

分散会で保護者の方が、『保護者とのコミュニケーションが難しいと感じることもあるかもしれないが、例えば子どものマイナス部分を伝えた時に、こういうことができなかった→次どうしていこうというように、“解決策を考えることが、保護者としてはうれしい”』とおっしゃっていて、気負わず、保護者の方と一緒に子どもを育てていくという思いをもって関わる大切であると思った。

今後の課題として、「見て、ストックする」ことを意識したい。学校ボランティアや実地研修で、先生方が児童生徒にどのような言葉で伝えておられるのか、また、保護者の方とどのように関わっておられるのかをしっかりと観察し、自分ごととして考え、これからは活かしていけるようにしたい。

今回の講座から、「子どもに寄り添い、保護者とともに子どもの成長を見守り、考えられる教員」という目指す教員像が意識できたようですね。保護者の方は、PTA活動という特別な場面だけでなく、日常の中で子どもが話す内容から学校の雰囲気、先生をイメージします。普段から子ども達のことをよく観察し丁寧に対応すること、学校が楽しいと感じるような環境を作っていくこと、目の前にいる子どもに合った言葉でしっかりと伝える事の大切さに気づきがありましたね。また、自分の行動を「客観視」することの大切さにも目が向けられていますね。気負わず、保護者の方と一緒に子どもを育てていくという思いを大切に、今度に繋げていってくださいね。

～クラス担当スタッフからのコメント～

## 分散会の様子

